

商業施設や文化施設などの空間づくりを手掛ける総合クリエイティブ企業として実績を重ねてきた。インバウンド需要の回復などコロナ禍から脱却しつつある今を好機に捉え、幅広いニーズに応えていく。DXやカーボンニュートラル（CN）への対応にも注力し、存在感をさらに高める。

——就任の抱負を。

「この3年間はコロナ禍で非常に厳しかった。痛んだ業績の回復が第1の目標だ。中期経営計画が最終年度を迎えている。目標を達成して事業基盤を整え、来年2月からの新中期計画につなげる。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）が近づいており、開催に伴う投資機運の高まりを捉えるべく営業活動中だ。インバウンドも戻ってきた。海外からの玄関口である空港への有益な提案にも力を入れる」

「大都市圏などでは都市開発が随所で進んでいる。オー

# 領域広げて顧客に貢献

丹青社

こばやし おさむ

小林 統氏

取り組み」

——CNへの対応は。

「脱炭素への貢献は大きな課題で、施設空間を作る上でも要求されている。かねてより行っている環境配慮設計や、産業廃棄物の適切な処理に加え、廃番になった建材などを流通する電子商取引（EC）サイト『4earth』（フオーアース）を立ち上げていく。使い切り無駄をなくせば、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を抑制できる。抑制量を算出する仕組みも開発中だ」

「空間創造事業が太い幹と業ができるラボも設けており、多様な人たちと新しいコンテンツなどを創り上げていきたい」

——今後の展望を。

「空間創造事業が太い幹と業ができるラボも設けており、多様な人たちと新しいコンテンツなどを創り上げていきたい」

——DXに対しては。

「DXの基盤となるBIMを使いこなせるよう教育を進めている。デザイン部門に加えて制作部門でも活用を広げ効率を高め、提案の幅も広げたい。空間の付加価値を高めるにはバーチャルへの対応も必要だ。これからは複層的に

## 新社長



1983年法政大学経済学部卒、84年丹青社入社。2008年IMC事業部長、15年CS事業部長、16年取締役、19年常務、22年専務。座右の銘は「意志あるところに道あり」。臨機応変に会社を変革していく必要性を感じており、「まずは自分自身が変わっていくことが大事」との姿勢で臨む。長野県出身、63歳。

（4月26日就任）

